



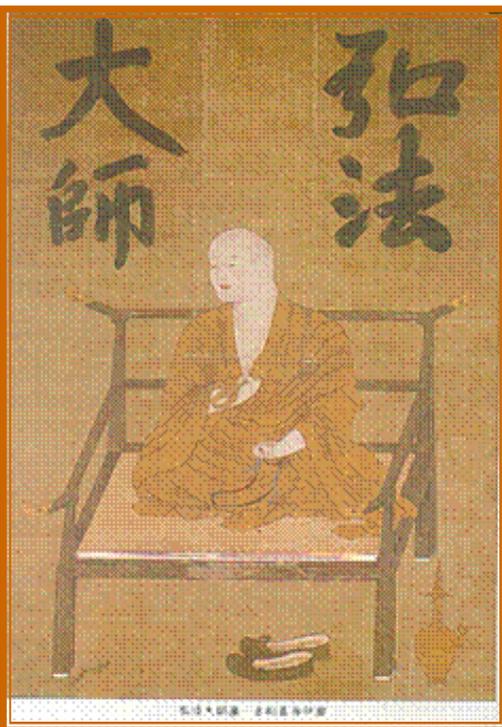
真言宗の派

機嫌(ケン)

仏教が生んだ日本語

愉快か、不機嫌か、人の安否を指すときに用いられるが、元来は、僧が世間から嫌われることを自ら戒めた仏教語であり、世間から後ろ指を指されたり、嫌われたりしないよう言行を慎むとして、戒められたものです。

ここが寿楽院の本山です



空海の言葉 シリーズ

妄語は長夜に苦を受く

●●●うそをつけば、あの世へ行って、何千年も苦しむことになる

「うそをつけば、閻魔さまに舌を抜かれるぞ！」
 いまだき本気で信ずる人はいないでしょう。しかしそれは真実なのです。弘法さんは「声字実相義」という本の中で、「妄語(うそつき)は長夜(夜が長い)ではなく、地獄のことです」のなかでくるしみをつづける」と、忠告しておられます。
 人間は真実の姿のままに生活すればいいのに、どうしてうそをつくのでしょう？あらゆる生物のなかで、うそをつくのは人間だけです。
 ちよつとしたうそをつき、次にそのうそを繕うために、またうそをつき、うそをつみかさねて遂にめんつが立たなくなつて足が遠のく、というわけです。
 不用意に発したそのうその声が、宇宙の黒板に永久に書き付けられるのでは困ってしまいます。それはあなたの心次第です。